

令和元年6月11日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26282010

研究課題名(和文) 開発途上国における生活支援教材の開発と協働-ラオスを事例に-

研究課題名(英文) Educational Materials and Methods for Improving the Quality of Life in Developing Countries in Lao

研究代表者

高増 雅子 (TAKAMASU, MASAKO)

日本女子大学・家政学部・教授

研究者番号：20120769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ラオス北部地域を中心に、教育関係者への食教育のためのスキルや知識の伝達、教材作成等の開発と共働の可能性を検討した。一部地域(ラー群ウドムサイ県)での試行的段階として、米飯を中心とする学校給食プログラムを実施した。ここで提案した学校給食プログラムは、ラオスで生産され、常食である米飯を給食に用いたプログラムで、女子の就学率向上、ならびに初等教育中の反復および中退率の縮小を実証することができた。現在、学校給食プログラムは、ラオス国の39の貧困を抱える郡で優先的実施が計画されるという実績を、得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、発展途上国における持続可能な生活支援として、日本における家庭科教育の手法を生かし、教育に主眼を置きつつ、衣食住、家族、経済、女性支援を専門とする家政学の見地から、研究を進めていった。本研究は、家政学の縦断的研究的意義もあり、この研究で得られた成果は、今後の家庭科教育に生かせるものとする。また、発展途上国の貧困に陥りやすい子どもや女性を対象とした本研究は、ジェンダー視角からアプローチすることができる家庭科教育の視点で、生活のボトムアップを図ることに社会的意義があると思われる。

研究成果の概要(英文)： This study was centered on the northern part of Laos, and investigated the possibility of sharing skills and knowledge related to nutrition education with educators in the region, the creation of teaching materials, and related collaborations. As a trial phase in one region (La District, Oudomxay Province), we conducted a school meal program that focused on rice. In this program, we made use of rice grown in Laos, which is a dietary staple, and demonstrated that the school meal increased the school attendance rates among female students and decreased the rate of elementary school students who had to repeat a year and dropped out. At present, our school meal program is planned on a priority basis in 39 provinces of Laos that face poverty.

研究分野：食教育

キーワード：発展途上国 生活支援 教材開発 学校給食 ラオス 女性リーダー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) ラオス教育スポーツ省 (MOES) は、2015 年までに「万人のための教育 (EFA)」を達成するために、「公平さとアクセス」、「質と妥当性」、「教育行政とマネジメント」を 3 本柱とした教育改善に積極的に取り組んでいる。このうち、学校建設、新規教員採用に積極的に取り組んだ結果、初等純就学率が 84% (2005 年) から 95% (2012 年) に向上した。

しかし、教科書・教材不足、不十分な教授時間、不適切なカリキュラム、教員数の絶対的不足、教員の資質・能力の低さ等の要因から、最終学年 (5 年生) 残存率は 70% (2012 年) に留まっている。また、都市部と農村部の教育格差もあり、背景には、家庭の貧困と親の教育の重要性に対する認識の低さ (学校に行っても知識が身につかない、生活の役に立たない等)、季節労働、児童労働、学校施設が劣悪であること等が挙げられている。

(2) ラオスの教育行政のもつ人材能力は、中央・地方ともに不十分で、必要な予算の確保も厳しい。そのため、農村部の小学校では給料も安いせいか、女性教員がほとんどである。学校運営も、保護者や寺院といった地域社会からの財政支援を受けて行っている小学校が、多くみられる。これに対し、MOES は各村に村落教育開発委員会 (VEDC) を設置し、コミュニティの参画を得ながら学校改善を促しているが、なかなか進展してはいない。

(3) MOES は、2025 年までの栄養に関する中長期計画で、学校給食の充実、学校菜園の充実、栄養教育・食文化継承のカリキュラム化、寄生虫駆除と鉄剤の配布・トレーニングを挙げている。食の面から学校教育を支える学校給食は、現在あまり普及しておらず、多くの児童たちは昼休みに一旦家に昼食を食べに帰るか、二部制学級に通っている。しかし、家庭によっては、経済的な理由で十分な食事が摂れず、栄養不良とみられる児童が多くみられる。

(4) 国際連合世界食糧計画 (以下 WFP) は、ラオスにおいて 2002 年より栄養補助食や米や食用油を小学校に提供し、学校給食の普及を支援してきた。また、食材を各家庭から持ち寄ったり、学校菜園で野菜を育てたりして賄っていたが、たんぱく質や微量栄養素等に不足がみられた。これらの栄養素の不足は、発達阻害や知的発達阻害、感染症に感染しやすいといった児童の健康にも大きく影響するものである。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、個人・家族・コミュニティの最適で持続可能な生活を目指す家政学的見地から、アジア地域の開発途上国におけるニーズを分析し、現地と協働で学校教育や地域社会活動に必要な資料や教材を作成し、提供することである。具体的には、調査対象地をラオスとし、都市部及び、農村部の生活の現状を把握し、ラオスにおける生活課題と改善方法を析出し、生活の質の向上につながる理論を組み立てることである。

(2) 成果物としては、ラオスの公用語でもあるラオ語で資料や教材を作成し、調査地においてその効果を検証する。これを踏まえて開発途上国の支援に共通するモデル教材として提供できるように改善し、その成果を国際家政学会やアジア家政学会を通じて、国内だけでなく広く世界に発信する。

3. 研究の方法

(1) 小学校における栄養・生活指導教材の作成

2013 年から行ってきた開発途上国家庭科教育推進の成果物である家庭科教材は、日本の家庭科の教材を開発途上国の文化、慣習、環境等に合わせ、誰もが使いやすい形で作成されたテキストであり、現地語であるラオ語で作成した (図 1 ~ 図 3)。また、学校給食プログラムの中でも、エプロンシアター等の食育教材を作成した。

これらの支援プログラムや教材を、ラオスの教育事情に合わせた形でさらにバージョンアップさせるとともに、学校給食支援プログラムの成果を、ラオスの国情に合わせた生活支援のためのプログラムとして再構築し、現地教育機関との協働の在り方について模索を試みた。



図 1 ラオスの食材を掲載した食品成分表

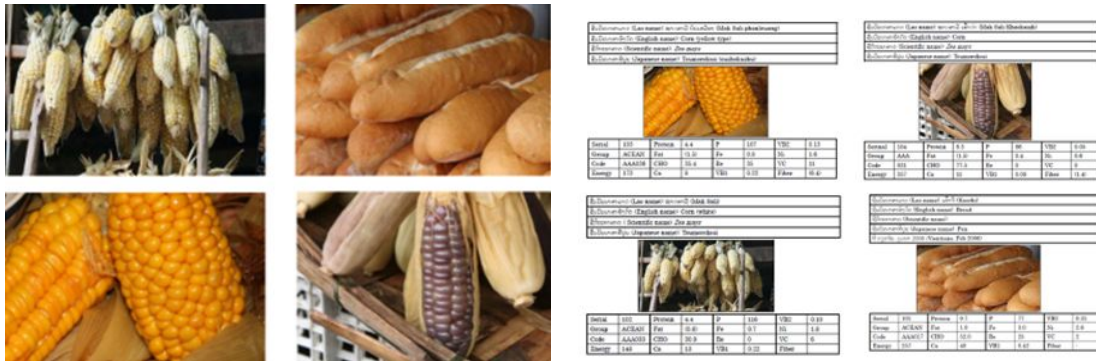


图2 カードに使用した写真とカードの裏の情報



图3 食品群別表と手洗い図

(2) 小・中学生の家族の生活の状況を把握し、生活の改善方法を提案し、教材を作成  
 ラオスの都市部・農村部の小・中学校の見学や児童・生徒・教員・保護者へのインタビュー調査を行い、その地域における家族の生活の実態を把握し、地域における生活の質の向上について検証を行う。都市部と農村部の衣・食・住・家族・経済などの生活の比較を行い、生活の質について検証し、生活課題を明らかにした。

さらに、教員養成課程のあるラオスのルアンナムター短期大学の協力を得て、地域に合った生活改善方法を提案し、学生との協働によって生活改善のための教材を作成した。

(3) 女性の自立に向けて、職業訓練と就業の実態を把握し、技術訓練についての提案  
 成人女性の識字率は低く、山間部では学校に行くことが困難であったり、家庭の貧困と親の教育の重要性に対する認識の低さも原因の一つと、いわれている。近年では、学校に行くために家庭で受け継がれた北伝統的な機織りの技術が、次世代に継承されないことが問題となっている。そのため、王立テキスタイルアカデミーでは、若者への機織りの技術指導を行っている。

女性が収入を得るための手段として、さまざまな試みがなされつつあるが、それらについて再度調査をおこない、女性の生活課題を検討し、女性の自立に向けて技術訓練への提案を行う。

#### 4. 研究成果

(1) ラオスの子どもの食生活の改善を図るプロジェクト（学校給食プログラム）への支援  
 教育関係者への食教育のためのスキルや知識の伝達、教材作成等の開発と共働の可能性を検討した。申請者らは、一部地域（ラー群ウドムサイ県）での試行的段階として、米飯を中心とする学校給食プログラムを実施した。

ここで提案した学校給食プログラムは、ラオスで生産され、常食である米飯を給食に用いたプログラムで、プログラム実施により、女子の就学率向上、ならびに初等教育中の反復および中退率の縮小を実証することができた。現在、学校給食プログラムは、ラオス国の39の貧困を抱える郡で優先的実施が計画されるという実績を、得ることができた。

2017年までに3回、ウドムサイ県での学校教員を対象に、望ましい学校給食とは 栄養バランスの取れた食事とは(教材活用法) 自分たちにとって持続可能なよりよい食生活について、学習会を開催し、グループワーク及び発表を行うアクティブラーニング形式で実施した(表1～表3)。

(2) ラオス教育省関係者の招聘による意見交換  
 関係部局のナショナルマシーナリー担当官および当該地域の行政官を日本に招聘し、講演会を開催した。また、先進事例として同じ米飯を給食に用いている日本において小学校での実地

表1 セミナー及びワークショップに対する評価の割合

質問項目	回数	回答内容				有意確率(両側)
		積極的	やや積極的	やや消極的	消極的	
ワークショップへの参加態度	1回目(n=28)	89.3%	107.0%	0.0%	0.0%	0.075
	2回目(n=43)	95.3%	4.7%	0.0%	0.0%	
ワークショップの効果	1回目(n=28)	89.3%	107.0%	0.0%	0.0%	0.825
	2回目(n=43)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
再度参加の意思	1回目(n=28)	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.821
	2回目(n=43)	83.7%	16.3%	0.0%	0.0%	

表2 役に立つと思う教材の割合 (複数回答)

	食品群の図	食品成分表	食品カード	献立集	消化吸収の図	エプロンシアター	衛生チェック表	手洗いキッド
1回目(n=28)	82.1%	71.4%	50.5%	53.6%	46.4%	53.7%	42.9%	71.4%
2回目(n=43)	93.0%	74.4%	74.4%	65.1%	67.4%	65.1%	67.4%	90.7%
有意確率(両側)	0.937	0.787	0.077	0.478	0.051	0.083	0.045	0.368

表3 ぜひ欲しいと思う教材の割合 (複数回答)

	栄養学習教材	栄養指導用教材	給食用教材	給食器具	その他
1回目(n=28)	3.6%	57.1%	42.9%	14.3%	50.0%
2回目(n=43)	16.3%	41.9%	40.0%	12.0%	7.0%

1回目 2015年10月実施      2回目 2017年10月実施

研修をしながら、意見交換を行った。

(3) 女性支援のための女性同盟訪問、授産施設見学

女性の自立支援のために活動しているラオス女性同盟を訪問し、その活動状況を把握した。さらに、女性の職業訓練を行なっている施設を視察、衣服製作・調理の技術指導等を見学した。

また、民間で女性の自立をめざして技術指導を行っている染織工房を見学し、教材作成の参考とした。

<引用文献>

JICA 2017: ラオス技術協力プロジェクト報告 <https://www.jica.go.jp/laos/>

MOES 2015 “National Strategy on Nutrition up to 2025 & National Action Plan on Nutrition 2016-2020”

AAR Japan 2017 「ラオス：子どもたちの学びと成長を支える」  
<http://www.aarjapan.gr.jp/activity/laos/>

神谷祐介 2015 「ラオス農村部における食文化と価値観の変容が子どもの健康に与える影響：実験・行動経済学的考察」食生活科学・文化及び環境に関する研究助成研究紀要 30, p111-123

今津屋 直子 2016 「ラオスの若者の食を営む力の育成に関する研究」日本家政学会研究発表要旨集 68(0), p187

寺島幸生他 2016 「ラオス人民民主共和国における理科教育の改善に向けた協働プロジェクト」鳴門教育大学国際教育協力研究 (10), p79-85

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

天野晴子他, 開発途上国における女性支援のためのプログラム開発, 日本女子大学総合研究所紀要, 査読無, 第21号, 2018, 1-36

高増雅子, ラオスにおける学校給食プログラムへの支援, 日本家政学会誌, 査読有, 66(10), 2015, p538-540

天野晴子他, 開発途上国における生活支援のための教材及び指導法の開発, 日本女子大学総合研究所紀要, 査読無, 第18号, 2015, 35-94

[学会発表](計5件)

Prospect of assistance to the school meal promotion programme in La district of Oudomxay province, Lao PDR: 高増雅子他, 第19回アジア地区家政学会ポスター発表(東京),

2017

The school meal programme in Laos and the role of the Lao Women's Union : 天野晴子他 , 第 19 回アジア地区家政学会ポスター発表(東京) , 2017

Development of teaching materials based on school meals in Lao : 高増雅子他 , 第 23 回国際家政学会ポスター発表(韓国) , 2016

Development and testing of a program for visualizing women's lives in developing countries : 天野晴子他 , 第 23 回国際家政学会ポスター発表(韓国) , 2016

Strengthening of the Sustainable School Meal Programme in Lao People's Democratic Republic : 高増雅子他 , 第 18 回アジア地区家政学会ポスター発表(香港) , 2015

[ 図書 ] ( 計 0 件 )

[ 産業財産権 ]

出願状況 ( 計 0 件 )

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年 :

国内外の別 :

取得状況 ( 計 0 件 )

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年 :

国内外の別 :

[ その他 ]

ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 天野 晴子

ローマ字氏名 : ( AMANO, haruko )

所属研究機関名 : 日本女子大学

部局名 : 家政学部

職名 : 教授

研究者番号 : 50299905

研究分担者氏名 : 飯田 文子

ローマ字氏名 : ( IIDA, fumiko )

所属研究機関名 : 日本女子大学

部局名 : 家政学部

職名 : 教授

研究者番号 : 60160826

研究分担者氏名 : 佐々井 啓

ローマ字氏名 : ( SASAI, kei )

所属研究機関名 : 日本女子大学

部局名 : 家政学部

職名 : 研究員

研究者番号 : 60017241

研究分担者氏名 : 望月 一枝

ローマ字氏名 : ( MOCHIZUKI, kazue )

所属研究機関名 : 日本女子大学

部局名 : 家政学部

職名：研究員  
研究者番号：60431615

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：川口 えり子  
ローマ字氏名：( KAWAGUCHI, eriko )

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。